努力と勇気でチャンスをつかむ

# 競争を生き抜く代理店

㈱日本シンクタンク　代表取締役　那須顯一

◀106▶

TEL06-6282-6488（代）
http://www.j-thinktank.com/

## 「ポケモンGO」が社会現象に

### 歩行中や自動車運転中は要注意

先月発生した、相模原市緑区の障がい者施設で19人が刺殺され26人が重軽傷を負った事件は『これが同じ人間にできる事なのか』と。

私自身、仕事で障がい者の方の施設や作業所を回ることもあり、また障がい者の方の雇用、共に生きる道を考える尊い理念の会にも参加させていただき、また先月14歳の息子を亡くしたばかりだったのもあり、ショックが大きかったのかもしれませんが、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りすると共に、被害にあわれた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

そんな大事件や東京都知事選が大きく報道される中、わが国でもリリースされた、スマートフォンアプリ、【ポケモンGO】が大きな社会現象になっています。

『ポケモンGOとは』で検索したら、『2016年7月6日に米国・オーストラリア・ニュージーランドで配信開始となったスマートフォン用AR（仮想現実）モバイルゲーム。開発・発売元はナイアンティックで、株式会社ポケモン、任天堂株式会社などがパートナーとして参加している。株式会社ポケモンによるゲームソフトシリーズ「ポケットモンスター」の世界観そのままに、スマートフォンのカメラと画面を用い、街や公園などの現実世界を舞台としてポケットモンスターを探し捕まえ戦うなどする体験型ゲームとなっている。同年7月14日までに、すでに販売地域では爆発的人気を得ており、墓地などが敷地内で同ゲームをしないよう要請するなど社会現象化している』と説明されていましたので、海外ではすでに社会現象になっていたようですね。

販売からまだわずかですが、私の知り合いの人が通勤途上でスーツ姿で、真剣な表情でスマートフォンを触っていたので、『急ぎのお仕事ですか』と声をかけさせていただいたらお子さんに頼まれてポケモンGOを操作している途中だったり、運転中にポケモンGOに夢中で事故を起こしたという話も耳にしておりますので、皆さんも要注意。

またこのポケモンGOの利用規約に記された免責事項が「アメリカ流の、周到に責任を回避する姿勢が垣間見える」と話題になっていました。

それが「安全なプレイ」項の「本サービスの利用中にお客様が被る可能性のある損害に関してお客様が合理的に必要であると考える健康保険、損害賠償保険、災害保険、人身傷害保険、医療保険、生命保険及びその他の保険契約をお客様の責任において維持することに同意するものとします」とのことですが、なんかゲームを提供する企業として、個人的には真っ当な内容だと思いますが、裏を返せば夢中になるとそれだけの危険性があるということ。

皆さんの周りでも、歩行中、自転車・自動車運転中に、ポケモンGOに夢中になっている人は全国に相当いらっしゃると思いますので、しばらくの間、『スマートフォンを操作している人には近寄らない』ことを意識したほうがいいと思います。

なぜなら、ともすれば飲酒運転よりも危険になる行為をしている人が何時でも所かまわずいる訳ですから、万が一そんな人と事故になり、過失をとられた時にはたまったもんじゃない。

だから歩行中でも運転中でも、スマートフォンを触っている人が見えたら近寄らないことが肝要。

【君子危うきに近寄らず】

皆さんの契約者にも注意喚起されておくほうが良いと思います。

## フィンテックが実用化へ

### 銀行が仮想通貨を開発中

スマートフォンついでに、先日アイフォンを落とし画面が割れてしまったので機種変更しようと考えたら、まだ数か月違約金が残る…。また、一般の修理屋さんで治すには一万円程度かかり、30分ほどかかって面倒くさい…。

こんな時にいつでも契約できる長期の補償があったらいいのになんて考えていたら、さくら少額短期保険株式会社（社名で検索）（https://www.sakura-ssi.co.jp/）さんが、スマートフォンなど、モバイル・IT機器を対象に、最大3台、年間10万円まで修理費用を補償する業界初のスマホ保険「モバイル保険」を販売されていました。

私が直面した液晶画面にひびが入るという事象はまさに補償対象になっていましたし、家族でスマートフォンが5台あるから私も入っておくべきかなあと。

そのうちこの保険がどこかの携帯ショップで販売されたりするのかもしれませんね。

弊社も少額短期保険事業者の代理店をさせていただいておりますが、少短が誕生して、面白い商品が増えて来ていますね。気になる人は要チェック？

三菱東京UFJ銀行が、邦銀による初開発で独自の仮想通貨の開発を進めていると発表がありました。

ITを活用した新しい金融サービス「フィンテック」（＝金融（finance）＋技術（technology）からの造語。金融とIT（情報技術）を融合した金融工学分野の技術革新。また、それに関連するベンチャー企業によるビジネスを指す。さまざまな投資ツール、サイバーセキュリティー技術、暗号通貨決済サービスなどが登場している）の一つで、実用化されれば、金融取引などの管理にかかる費用を大幅に節約し、国際送金や振り込みの手数料を安くできるとのことですが、実現すれば我が国の金融業界が大きく変わる。あるいは一時期混沌とすることになるかもしれません。

同じ金融業界にいる者としては今後も目が離せない動きです。

いろいろなことから目をそらさず、また心を奪われ過ぎず、お互い生き残る代理店を目指しましょう。

## 痛ましい障がい者施設の事件

---

# 保険ショップの現場から…

西田 理恵 ―― 73

## 自転車保険から保険全体を見直しへ

### 未開封のまま保管されていた証券

「自転車保険のことで妹が相談したいんですが、いつなら西田さんは空いていますか？」と5年来のおつきあいのS様よりお電話が入りました。S様は52歳の女性で今までにご家族全員の保険のご相談をいただき、すべての保険を任せてもらっています。

7月1日より大阪府の自転車条例による自転車保険の加入義務化が施行されることに先立ち、私はS様のご加入されている保険ですべて網羅しているため、新たに「自転車保険」を加入する必要がないとご説明、ご案内したのが6月でした。

その後S様の妹様から「私はお姉ちゃんみたいに結婚してないし、自動車も持っていない。自転車の保険に入るべきかな？　今は父と二人暮らしだけど父は七十歳超えてるのに自転車が大好きでどこへ行くにも乗っていくのよ…」というご相談を受け、一緒にお店に相談に来たい、ということがきっかけでした。

私は事情を聴いた上で「妹様とお父様の現在ご加入されている保険証券を全部ご持参いただけますか？　火災保険や傷害保険も」とお伝えするとS様は「私も同じことを妹に言ったのよ。とにかく全部持っていってこの際やから整理してもらったら？」と言ってくださったようでした。

当日、S様と妹のT様が一緒にご来店されました。T様はこういったお店での保険の相談をしたことがなく、少し人見知りということもあって今日は付き添ってほしいとS様にいっておられたという話から始まりました。保険証券も全部持ってきてくださいました。

私はこの仕事をしていて同じ光景を何度も見たことがありますが、T様も例に漏れずでした。というのは保険証券は届いた時の封筒に四つ折にはいったまま中身が見えずにいます。封筒の表に被保険者のお名前と保険の種類が「簡保」とか「火災」とか記載して一箇所でなくばらばらに保管されているので、「保険証券を全部持って来てください」といわれるとまず探すところからはじめる状態だったそうです。

私はもしよければお父様と二人分わけて　ファイリングしましょうか？とT様に提案すると「えっ！　そんなことまでしてくれるんですか？　助かります」と笑顔になりました。S様が「だから全部持って来て正解やろ？」と最初の緊張もとけて談笑になりました。だんだんT様の本音の声も出てきました。

「父が自転車に乗ることも心配だけど実際どんな保険に入っているかどうかも知らなくて。今日で全部判明しますね！」と積極的に一つ一つの保険内容について質問も出てきました。

その日、火災保険の見直しをすることになり新しくご提案し、本日すぐにご加入されました。個人賠償保険特約をつけることで自転車保険の「相手への賠償責任」が付加でき、「まずは一安心です」。続けてお父様の自転車にかかわらず転倒したりケガや病気の保険ですが、お父様が傷害保険と終身の医療保険にすでにご加入されていたのでこれも解決。

「今回のメインの問題はこれで解決しましたね。ただT様のご加入されている保険は気になる点が二つあります」と、解説し、解決案も考えました。その日ご持参いただいた証券をそれぞれ二冊にファイリングし、表紙にはご加入保険の現状分析シートで一覧にしました。

ご来店されたときと別人のように饒舌で笑顔になってお二人は帰られました。少し時間をおいてS様にご紹介いただいたお礼のお電話をすると「妹も喜んでいました。というかわからない状態が一番不安だといっていました。ほっとしたのでいつものようによくしゃべり出したみたいです。本当にこちらこそ助かりました。ありがとうございます」

その後に「私も実は父の保険、中身は今日まで知らなかったんです。これで請求とか起きたら私も手伝えるし何かあったらここに相談に来てもいいですよね？」と言ってくださいました。

自転車保険の強制加入がきっかけでしたが、お客様の保険の全体を考えるという職務は今までと変わらないので、これからもより一層保険を理解していただくように従事していきます。